

鴨川市教育委員会 9 月定例会会議録

1 日 時 平成 26 年 9 月 26 日 (金) 開会 午後 2 時 30 分
閉会 午後 4 時 30 分

2 場 所 天津小湊支所2階会議室

3 出席委員 (1) 根本新太郎 (2) 村上修平 (3) 石井千枝
(4) 野田 純

4 出席職員 (1) 蒔苗 茂 (2) 前田恵美子 (3) 石井利彦
(4) 鈴木克己 (5) 金高 節

5 委員報告

- ・石井委員から、9月6日に長狭学園体育祭を参観し、応援合戦を審査する人数が少なく学校から依頼を受けたので、一度家に帰って出直しその役を果たしたこと、また、保護者のみならず地元の市議会議員や区長をはじめとする地域の方々が大勢参観され、長狭学園が地域のシンボルであり地域とともに歩む学校になっていることを実感したこと、初めて小中一貫校を参観したが開校して6年目ということもあり、子供達も先生方も小中一緒にやるのが自然となっており、すごく優しい感じを受けたこと、小学生と中学生の応援を見て感じたことは、中学生の凛々しい姿を目の当たりにし小学生がその姿を目標として育っていくのではと感じたこと、9月24日に県の教育委員研修会に参加し、道徳が教科として扱われ、その評価は記述式になるとの情報を得たこと、意見交換の中で、道徳が教科となった場合、誰も専門免許を持った教員がいないこと、技術的なスキルアップはできるだろうが子供の心に響かせるためには教師の資質の差が出てくるのではないかとの指摘があったこと、京谷県教育委員が道徳分科会のオブザーバーを務めていたが、子供の心に響かせるためには教師が感動する心を忘れないことが大切であるとのお話があったこと、柏市では道徳の資料を市内の教職員がいつでも見られて活用できるようになっていること、八街市は東日本大震災の被害に遭った宮城県の大川小学校に生徒を派遣し、その情報を道徳の教材に生かしていること、等の報告がなされた。
- ・村上委員から、9月6日に安房東中学校の体育祭を参観したこと、自分が中学生だった頃は準備体操といえばラジオ体操だったが、安房東中学校ではストレッチを準備体操として取り入れており、スポーツ医学の発達とともに準備運動一つとっても昔とは変わってきていること、プログラムの最初に全校リレーが組まれ、その後個別競技に入ったこと、小湊小学校でも同様なプログラムの流れだったこともあり、現

在の流行なのかなと思ったこと、9月24日に教育委員の研修会に参加したこと、全体会の冒頭に県の連絡協議会会長や県教育委員長から、これからは教育委員会が新しい形になること、新しい形とは教育委員長を無くして教育長が教育委員会の代表者となり、今までより責任の所在が明確になること、私見を言えば教育のスペシャリストである教育長が文字通り教育委員会のトップになることが望ましいことであり、鴨川市もできるだけ早くこのような方向で進めてほしいと思うこと、午前中は、「教師の指導力を高め、子供の真の学力を向上させるために教育委員会は何をすべきか」をテーマに山武市や松戸市、神崎町の各教育長がパネラーとして自分の意見を述べ、県教育委員会からも意見が出されたこと、山武市は学力テストで県平均を下回ったため、各小中学校にI P A Dを一クラス分だけ配備しI C T教育を推進していること、校長や教頭、教務主任といった階層別研修を充実し教師力を高めていること、松戸市では小学校が44校、中学校が20校、計64校あり、平成15年度から学校選択制やスタッフ派遣制度を導入し教職員のレベルアップを図っていること、若手教員のレベルアップを図るとともに優秀な教員を表彰してやる気を高めていること、神崎町では小学校2校、中学校1校しかない小さい町ではあるが地道な取り組みを進めていること、午後の分科会は学力向上委員会に参加、野田市の土曜授業の取り組みに対し、これから取り組もうとしている佐倉市をはじめ多くの市町村との間で教職員の代休処理や多忙化等について活発な質疑がなされたこと、また、野田市の土曜授業では、学力の定着度に応じた習熟度別の授業を中心に行っており、子供達の学力や保護者の理解が確実に向上していること、市内にある東京理科大学との連携により、学生がボランティアとして小中学生の学習をサポートしていること、佐倉市では佐倉学という学びを設けており、地域に根ざした伝統や文化を通して、郷土に対する愛着や誇りを高めることを目的としているとの説明であったこと、この分科会に参加し、教科の学力の他にそれを支える生活習慣面の調査データを教えてもらいたいと思ったこと、等の報告がなされた。

- ・根本委員から、9月議会があり今日が閉会日であったこと、9月6日に安房東中学校の体育祭が開催されたこと、24日に教育委員研修会があり、「教師の指導力を高め、子供の真の学力を向上させるために教育委員会は何をすべきか」という大変大きなテーマで全体会があったこと、山武市では校長のリーダーシップの重要性や学校が安心できる場所という雰囲気をつくるのが大切であること、家庭学習の手引きを作り、小学校1年では20分、小学校2年では30分というように大変細かく時間的目標を設定しているとのこと、松戸市では大変大きな都市であるので鴨川市とは違うなと感じたが、優秀な教員のいる学校に研修体験を設けていることや市内64校をすべて特例校にして「言語活用科」という新たな科をつくって、特に英語と日本語を強化していること、神崎町では地域・学校・家庭のマネジメントに取り組んでいるこ

と、分科会では、「地域が育む生きる力について」のテーマで、匝瑳市の発表では、子供の通学合宿を3泊4日で行っていること、風呂のない施設に宿泊するときは近所の家に借りに行くとのこと、八千代市では子供達の自主性を育むため、各校2名ずつが集まり子供サミットを開催しているとのこと、一つの例として、外国との文通に取り組んだ韓国との国際交流の事例発表があり、他市町村の教育委員から、何語でやっているのか、政治的な意図があるのかとの質問があったこと、それに対して、文通言語は英語であることや相手国については政治的な意図はなく単に古くから交流のあった所以であるとの説明がなされたこと、25日に天津小学校所長訪問に同席したこと、教育事務所の方から不審者情報の事例があるかとの質問があり、その際、学校側から通報体制について明確な回答が得られなかった感じがするので、この辺についてどうなっているのか把握したいこと、学校から社会体育に参加している子供が運動能力や体力があり、参加していない子供は劣るとの説明があったが、劣る子供は参加したがるらないということもあるので一概には言えないのでは、むしろ現実には劣っているとすればどう改善していくかの具体策を考え実践していくことが大事ではと感じること、等の報告がなされた。

6 教育長報告

- ・鴨川市の教育委員は学校現場を数多く見られていること、他市町村の教育委員は所長訪問や計画訪問に同席しないことが普通であり、この点には鴨川市教育委員会の特色ある取り組みであること、8月25日に「この本大好きの会全国大会」が鴨川市で開催されたこと、この開催においては前図書館長の原政子氏が大変尽力されたこと、27日には早稲田大学と本市との交流事業である、おもしろ科学実験教室が市内外から300名ほどの子供達が参加し行われたこと、早稲田大学の先生方や市の職員、市内小中学校の理科教員が連携協力していろいろな実験を企画している非常に人気の高い体験型事業であること、31日には曾呂サンデースクールが開校したこと、これで6つの土曜スクールが開校したこと、9月1日から開会した市議会では今までで一番多い11名の議員から一般質問があり、教育委員会に対してはスポーツ審議会に関することや大山寺の修繕に関すること、多目的施設整備に関すること、野球場の整備に関することへの質問があったこと、6日には鴨川中学校と長狭学園、安房東中学校の体育祭があったこと、特に鴨川中学校では教員が生徒と一緒に夢中になって取り組んでいたこと、10日にはオルカ鴨川の後援会が設立されたこと、13日には曾呂小学校の最後の運動会があったこと、ユニフォームを揃え皆で有終の美を飾っている感じがして素晴らしかったこと、22日に多目的施設基本構想等プロポーザルがあり4社からプレゼンテーションがあったこと、23日は鯛リンピックがあったこと、スポーツ少年団を中心に大変盛り上がったこと、25日は天津小学校と鴨川小学校の所長訪問があったこと、鴨

川小学校では先生も子供達もおもしろがる授業を大事にしている、子供の心に火をつけるためには教師自らが楽しんでおもしろがって取り組む必要があること、子供達のやる気を育てることが教育の目的であると思うこと、等の報告がなされた。

・蒔苗教育次長より、学力学習状況調査については教科のテストだけでなく、質問紙法による生活習慣の調査も行っており、資料にあるとおり非常に多岐にわたる設問に回答する形となっていること、本市においては家庭学習の時間が全国、千葉県と比較しても決して多くはないが、学力は全国、千葉県を上回っている状況にあり、授業に集中して取り組んでいる児童生徒が多いと推察できること、その他の設問については、都合のつくときに目を通していただきたいとの説明がなされた。また、全校リレーが多くなってきている背景については、小規模校においては、人数が少なすぎて選抜リレー競走を実施する意味がないこと、大規模校においては、参加種目数が限られてしまうことにより、全体の盛り上がりや運動会や体育祭に対する個々の満足感が得にくいこと、また、全校リレーを実施することで所属の一体感が得られることや勝つための作戦をチームで考えられる教育的意味を持たせやすい等が挙げられるとの説明がなされた。石井委員から全校リレーを実施する上では、各組の走力の平均化や休んだ生徒の代替等、留意すべき点があるとの補足がなされた。家庭学習の手引きについては、本市でも作成して全校で取り組んでいるとの説明がなされた。また、高度情報化への対応は避けて通れない課題であることからタブレット導入は本市としても視野に入れているとの説明がなされた。根本・村上委員からタブレットを導入するとなると教員の研修も必要となってくることや経費をかけるだけの成果が見込まれるかという視点も十分に検討する必要があるとの指摘がなされ、今後しっかりと精査して取り組んでいくとの説明がなされた。

7 議 事

(1) 「鴨川市立幼稚園管理規則の一部を改正する規則の制定について」

前田学校教育課長より、「鴨川市立幼稚園管理規則の一部を改正する規則の制定」について、資料をもとに説明がなされた。

・質疑なく、全員の了承が得られた。

8 その他

(1) 各課長から、「10月の教育委員会行事予定」について、資料をもとに説明がなされた。

・10月1日に鴨川市小学校陸上記録会が追加された。

定例教育委員会の次回開催日は、10月22日（水）14:00とすることとした。

- (2) 蒔苗教育次長から、「地教連教育委員研修会10/28」について、資料をもとに説明し、出欠席の確認がなされた。
- (3) 鈴木スポーツ振興課課長補佐から、「千葉ロッテキャンプ」について、11月4日から始まることの説明がなされた。
- (4) 鈴木スポーツ振興課課長補佐から、「多目的施設基本構想等プロポーザル」について、資料をもとに説明がなされた。
- (5) 蒔苗教育次長から、「いじめの実状等」について、平成24年度から平成26年度9月16日現在までの間、市内幼稚園・小・中学校の休職者や不祥事の有無、いじめの有無やその主な理由等について、資料をもとに説明がなされた。
- (6) 前田学校教育課長より、子ども子育て新制度について資料をもとに概要の説明がなされた。

根本委員長は、一切の審議の終了を告げ、閉会を宣言した。

以上、会議の顛末を記載し、相違ないことを証するため署名する。

平成26年10月22日

鴨川市教育委員会 委員長

委員長職務代理者

教育次長

会議録作成者 蒔 苗 茂